



奇跡の一本松ライトアップ

所在地／岩手県陸前高田市気仙町字砂盛  
 施工主／陸前高田市 都市計画課  
 設計／岩手県電気工事業工業組合 青年部、パナソニック株式会社  
 電気工事／岩手県電気工事業工業組合 青年部  
 竣工／2013年7月

スカイツリーのLED投光器技術を用いて「奇跡の一本松」をライトアップ

岩手県陸前高田市の高田松原は約350年前に植林が行われ、白砂青松の名勝として市民はもとより県内外の来訪者から愛されてきた。

2011年3月11日に発生した地震と大津波は陸前高田を襲い、死者行方不明者は2,000人近く。市街地や海沿いの集落は壊滅状態となった。約7万本と言われた高田松原もほとんどが流され、その中で唯一残ったのが樹齢およそ170年といわれる「奇跡の一本松」。しかし、津波に耐えて奇跡的に残った一本松も、海水による損傷を受け、2012年4月に枯死が確認された。陸前高田市は復興のシンボルとして、市民に希望を与えてきた一本松をモニュメントとして保存整備することを決定。その費用は全世界からの「奇跡の一本松保存募金」があげられることとなった。その金額は2013年12月段階で、1億7216万円に達する。

この一本松は夜間にライトアップが行われている。これを計画・実施したのは岩手県電気工事業工業組合の青年部。高さ約27.5mの高さを照射するために、スカイツリーで開発された超狭角型LED投光器の技術が用いられている。



27.5mの枝葉を超狭角型LED投光器でライトアップ 幹下部の色感を損なわないライトアップ



幹部用LED投光器(指定色)



枝葉用超狭角型LED投光器

主な設備

- LED投光器  
超狭角型LED投光器x6台  
LED投光器(指定色)x3
- 電設盤
- スッキリボール



菅野卓訓氏 かのたくのり  
 日成株式会社  
 代表取締役  
 岩手県電気工事業工業組合  
 青年部部长(当時)

鎮魂と希望の光を「奇跡の一本松」に灯したかった。

震災後は停電復旧のための電気工事に追われましたが、明かりが灯るとだれもが喜んで感謝されました。私たち電気工事会社の仕事は「明かりを灯す」ことだと痛感しました。このため、松原の一本松が残ったことを知ってまず思ったのは「ライトアップする」ことでした。昨年、一本松が保存処理をされレプリカとして再現されると聞いて、岩手県電気工事業工業組合 青年部として市にライトアップを提案しました。その際に力になってくれたのがパナソニックです。投光器の配光設計やLED器具の選定、プレゼン資料の作成も協力して行いました。最後は熱意が理解され、市の事業として承認されました。多くの課題もありましたが、青年部や関係者の皆さんの協力により、「鎮魂と希望の光」を灯すことができました。